



学校園だより

# 良樹細根

丹波篠山市立  
たまみず幼稚園  
城北畑小学校  
7月の5



### 3年環境学習

7月16日(木)雨の合間をぬって農園に行きました。農業委員さんのご指導を受けながら、今回は草引きと土寄せを行いました。「あと30分やで。このままやったら終わらへん。」「土を手前に引くんやで。」「私、草運びます。」「ゲンゴロウがいる!」「鍬に土が引っつく!」「かかとかから上げると、長靴が抜きやすくなるで。」「草がなかなか抜けへん。」「草の根が深い!」等々、子どもたちの声が飛び交う中、先日から降雨で畑仕事には向かない状況においてもみんな一所懸命活動することができました。どんな作物でもほおっておいたら育つものではありません。汗をかきながらコツコツと世話をすることが大切。勤労体験を通して黒枝豆栽培の大変さを感じ取ることができたのではないのでしょうか・・・。



### 4年総合学習

7月17日(金)は、4年生が楽しみにしていた畑川での生き物調査の日でしたが、あいにくの雨降り中止。バスで移動はしましたが、みたけ会館をお借りして田井先生(丹波篠山東雲高等学校教諭)のお話を聞きました。畑川にすむ魚の種類、川の流れの速さや深さによって住んでいる魚の種類が違うこと、産卵場所、外来種、絶滅危惧種、生態系等々、写真を交えて丁寧に教えていただきました。みんなよく聞いていました。田井先生への質問もたくさんでした。基礎知識は十分身につきました。帰りのバスに乗るとき、「あ〜、川へ行きたかった。」「絶対行きたい」などと口々に言っていました。晴れの日を選んで、次回は川で実習を行いたいと思います。

### 親子読書より

県道徳副読本「コウノトリの舞う里 ーよみがえった風景ー」を読んで

○わたしは、「コウノトリの舞う里」を読んで、コウノトリが一九七一年に絶滅してしまっても何とかしようと思った人がたくさんいたことに感動しました。わたしたちと同じような小中学生が「ドジョウ一匹運動」や「ぼ金運動」をしていて、コウノトリは、よほど大事な生き物だと分かりました。(5年)

◎コウノトリが住める豊岡について調べ、学ぶことは、豊かな自然を守る上でとても重要なことだと感じました。ゴミは持ち帰り、分別したり、水の出っぱなしをしない等、自分のできることをしっかり考え、丹波篠山がより美しい町になるよう考えてほしいと思います。(保護者)

◎人間にとって便利で都合がよくなっても鳥にはその逆。それに気がついて復活させようと動いた子どもたちは、大人になっても環境や自然に目がいくすてきな人になっているのだろうと思いました。丹波篠山にもコウノトリが舞う里として、自然を守りたいと思う子どもたちが増えたらいいなと思います。(保護者)

◎コウノトリは、これまでニュース等で聞く絶滅寸前の鳥でしたが、豊岡で見かけ、最近篠山でも見かけたと写真を見たりして、身近にコウノトリが生育できる環境があることを実感しています。一方で、農薬散布など人間と動物に有害な行動も身近にあり、考えさせられました。(保護者)

県道徳副読本「夢、果てぬ思い」（植村直己）を読んで

〇ぼくが年よりになった時、この言葉を思い出したいです。でも、おじいちゃんは70才ぐらいだけど、まきをわったり木を切ったり元気なのはなぜでしょうか。考えたいです。なぜか分かりました。おじいちゃんが元気なのは、しっかり運動しているからで、直己さんににっています。しかも積極的で、ぼくがつりや山をのぼりたいと言ったらやらしてくれるからです。つまり、自ぜんと向き合っているところが直己さんとにっています。  
(4年)

◎植村直己さんと祖父を比べて読んだようです。自分のやりたいことを求めて丹波篠山に移り住んだ祖父の夢を、またインタビューするそうです。  
(保護者)

◎子どもより私たち大人の心に響いてくるように思いました。夢＝かなわない、というようにどこかに思い込んでいる自分がいます。かなう、かなわないというより、夢を持つことは人生が豊かに、心も豊かになるように思いました。子どもの夢にも耳を傾け、見守って行ってやりたいと思いました。

※保護者の皆様には、他にも「わたしの大切なもの」「インターネット上のマナー」などを親子で読んで、感想を書いていただいています。日々のお仕事で忙しくされているにも関わりませず感想を書いていただき、感謝しています。子どもへの思いが感想文から読み取ることができ、家庭の力を感じます。心豊かな子どもの成長を願いつつ、教職員も指導と支援を続けてまいります。

## 2年算数

一の位がひけないひっ算の仕かたを考えよう が先週のテーマでした。



53 - 26は???

前の時間は36 - 24などの繰り下がりが必要としない筆算を学習しましたが、今回からは繰り下がりが必要とし、その手順をマスターするという、位ごとのまとまりが理解できていないと難しく、児童のつまずきが多くなる問題です。

「十の位から3とる」「10 - 3をする」「十の位をバラバラにする」「十のカードを変身させる」「十の位をバラバラにしないと、一の位に入れない等」と発言していました。どのように考えればいいのか、頭の中でどのように操作すればいいのかを確かめるために、黒板の掲示物を使って説明していました。話し合いが進むにつれて徐々に筆算のやり方が分かってきました。みんなでまとめた結論は、「一の位が引けないときは、十の位から一繰り下げる」とし、ノートにも記録しました。筆算を使った計算方法は、十進位取り記数法に基づく計算であり、今後の乗法や除法の計算の原理にもなります。大事な単元ですのでしっかりと指導をしていきます。

## 人権朝会

7月20日(月)人権朝会



本来なら年度当初に実施していましたが、学校が6月スタートになるなど、遅れていました。園児、児童、生徒、家族、近所の人、赤ちゃん・・・、一人一人が人間として尊重され、人間らしく生きることができる社会を創造することが一番大切です。誰一人全く同じ人間は存在しません。顔、背丈、髪の毛の長さ、声のトーン、考え方、感じ方、得意なこと、不得意なこと、好きなこと、嫌いなこと、夢、物事の捉え方等々、みんな違います。だからこそ、その違いを受け入れ、相手の気持ちに寄り添い、優しさを失うことなく周囲の人と接しなければいけません。

幼稚園、小学校生のころから、正しい接し方、相手の気持ちに立って考えることができる人間により一層近づけるように指導をしていきます。私たち子どもたちをあずかっている教職員の大切な使命です。